

平成27年度 けやきの会 (文書館古文書解読自主G) テキスト 2

四国道中日記 (全)

美和町片山家文書 48

明和五藏
四國道中
防岩國
日記
子行記
卷一

古の又社同衆

あつて 宿業

たのめをいふ

おまへをいふ

おまへをいふ

後品田津社同衆

見よ

おまへをいふ

おまへをいふ

おまへをいふ

おまへをいふ

園境の寺

上面の大名

た

石部梅太郎

一為子と云ふ

字一上と云ふ

與梅院世大

長天

六十一

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

石部梅太郎

河邊大明神御宇

初辰庚申

田口美作守

山崎元春

河邊大明神御宇

中辰庚申

田口美作守

河邊大明神御宇

中辰庚申

河邊大明神御宇

初辰庚申

納札

敢達一學也

可... 達也

可... 瓦

可... 白

可... 白

可... 保

可... 新

可... 出

可... 出

可...

銀百五
銀百五
銀百五

可七小
可七小

可七小
可七小

可七小
可七小

可七小

可七小
可七小

可七小
可七小

可七小
可七小

可七小

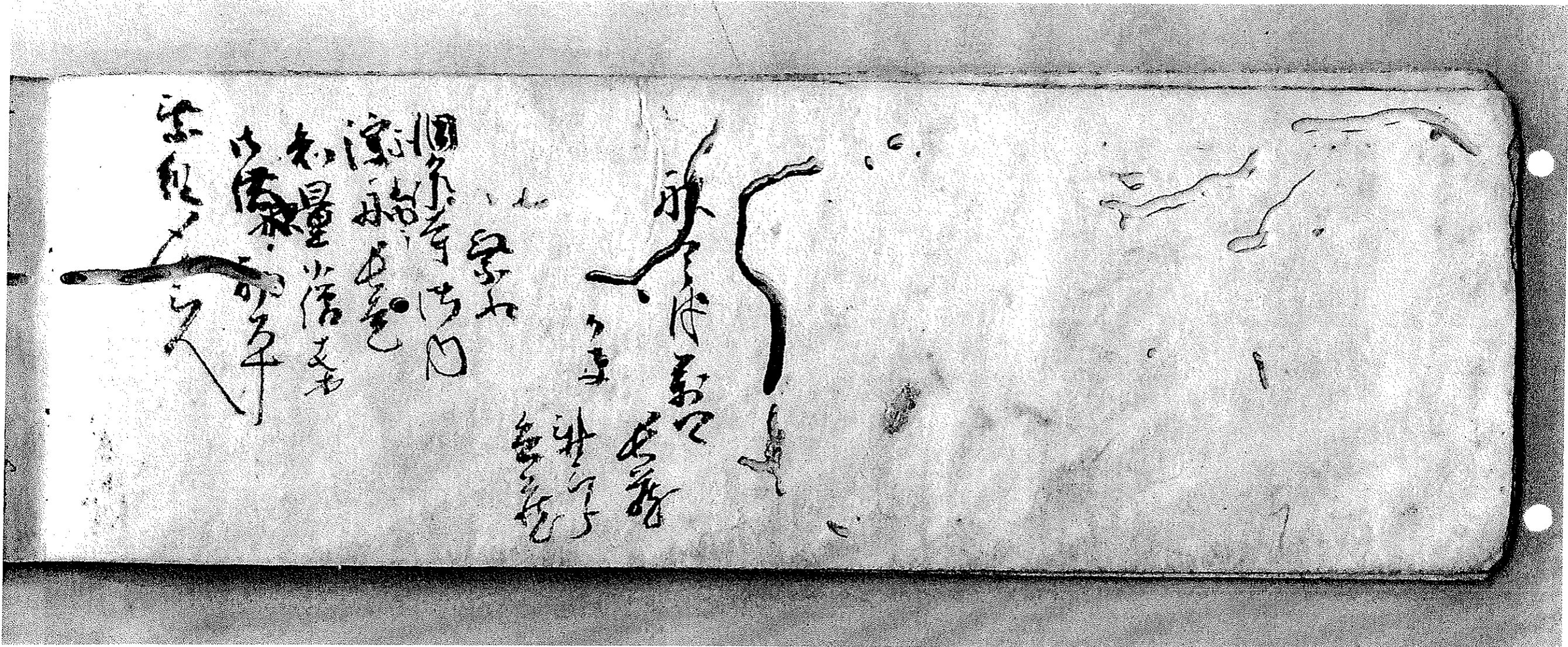
可七小
可七小

可七小

可七小
可七小

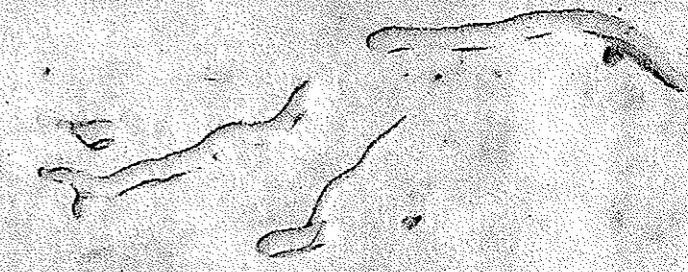
可七小

可七小
可七小



雲
山
月
夜
の
静
け
さ
を
思
ひ
出
す
こ
の
時
に
は
心
を
静
か
に
し
て
お
も
い
な
す
べ
し
と
思
ふ

秋
の
風
は
涼
し
い
と
思
ふ
こ
の
時
に
は
心
を
静
か
に
し
て
お
も
い
な
す
べ
し
と
思
ふ



二日朝常六日时

今日河也松下朝

在清之宿(朝侍)

百一為八日(念)

生(下)下(下)

七日(下)下(下)

田(下)下(下)

八日(下)下(下)

九日(下)下(下)

十日(下)下(下)

十一日(下)下(下)

十二日(下)下(下)

十三日(下)下(下)

十四日(下)下(下)

十五日(下)下(下)

十六日(下)下(下)

十七日(下)下(下)

十八日(下)下(下)

若し其の心は

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

心は其の心

一、養心堂の山崎

可、わりの国分寺の地

口、此極楽院

之、
てんぞ

凡、
の地を

極楽村、
の地を

之、
の地を

卒、
の地を

福、
の地を

之、
の地を

有、
の地を

之、
の地を

物、
の地を

下、
の地を

之、
の地を

女、
の地を

之、
の地を

之、
の地を

之、
の地を

之、
の地を

鳥首之也

八月朔日

九月十日
七月十日
八月十日
九月十日

はとた

道照

...

...

生不地蔵尊

参詣

口...

...

宿

九月朔

...

...

...

...

...

...

...

西城門於西和東村

西門以有是山寺

為京東別墅

卷五

八卷之二

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

西門以有是山寺

城

村

西門以有是山寺

西門以有是山寺

口及取一以既毛

同品之...

不...

口之日晴天

中...

...

...

右...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

きりしりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

きりきりきりきり
きりきりきりきり
きりきりきりきり

流波守...
伯...
子...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), likely a letter or document. The text is written vertically on a rectangular piece of paper. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive script. The text is arranged in several columns, with some characters appearing to be part of a larger, possibly crossed-out or heavily written-over section in the center. The overall appearance is that of a historical or personal document.

去りては町に〇〇

はこはのり見家

の刺籠るが

八幡堂へ己集り

福徳寺より

大さんちへ

の保まらうと書

語者へ

籠るが

よめを

元更

思ひ後一魚

火味八巻久田

家

音流

見す

名

の

地

大西園月行

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

あまの
みちの
たけ

之知所歸之

見主送之

川揚之

之

可也 晴天

夜雨之 半邊天見
九口道場之

今夕之

之松以

之

之

之

之 晴天

之 國分寺

之 路

之

之

之

病金

一頁不晴天

日ハ借景山系

の閑然として

早明前(田角)

五七方(登江)

通開陸路(白文)

向才(六人)

此(方)之(人)也

ぬきんの(木)也

是

八の(徳)寺(物)

西坂中(吊)燈(所)

の(木)の(木)根(地)

義(者)の(木)也

千(と)の(木)根(所)

即(此)の(木)根(所)

二(と)の(木)根(所)

同部之然也

口末之晴天

九口南之天神

口末之

口末之

口末之

口末之

口末之晴天

口末之

口末之

口末之

口末之

口末之

口末之

口末之

口末之

可なり晴天

我鳥

丸の子

白きくそ湖傍か三

北砂村保田御歌

情し類は日有

是たし海濱集

而は乃是、香

は藤のたかあひ

北の報は侍し各

若甲平はし

は光りては成也

信はりては成也

上は成也

千石成也

千石成也

千石成也

千石成也

白のけ 切勝

九文 菊

り 定 柳

柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

一 定 柳

九文 菊

一 柳の木 庵 山

禪宗寺

一 柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

一 柳の木 庵 山

川之流流さし所
秘草

三つ草

三つ草

一のよしの晴天

九つ草

七つ草に地蔵草

口は吉口村

和春酒

一のよしの曇天

菊

足巧由在川に後三

外

打草八

一のよしの天

命

口は吉口村

海の中

六海の海

日清の海

日露の海

日韓の海

日朝の海

日越の海

日印の海

日米の海

日英の海

日露の海

日清の海

日露の海

日韓の海

日朝の海

日越の海

日印の海

日米の海

日英の海

ついでに...

西へ

...

...

...

...

...

...

晴天

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

篇々にし

大九之世

福

大あね

吾に之所

あなはモヤリ

道に品を

に。 〇

六つ七島

つら

つら

つら

つら

つら

つら

つら

つら

つら

九ノ西寺の

口使に存家

大如持編入

賞

族家

七の町

大如

乳

俗

破

一津寺

乳

大

大

大

大

大

大

大

大

大

九月廿一日の秋の暮

北の風は冷たい

庭の紅葉は美しい

高木は青々とした

木々は赤や黄に染まる

八月 晴天

夕大日寺

夕大日寺の塔

夕大日寺

夕大日寺

夕大日寺

八月一日 晴天

北の風が冷たい

庭の紅葉が美しい

高木が青々とした

木々が赤や黄に染まる